

〔 久しぶりに「お塩」の話 〕

この通信を始めた当初はお塩の話ばかりしていましたが、ここ最近はキャンプの話がほとんどになってますね。お蔭様で、手塩の販売はとても順調にいています。以前この通信で何度か書きましたが、次なるステップとして「風力による海水の蒸発施設」を作ろうと、最近少しずつ準備を始めています。施設はもちろん僕の手作り。家作りは楽しい、「ふうあん」を作ったことと比べればお茶の子サイサイッ!! (...現実には.....言うまい!)

今回はその「蒸発施設」についての話ですが、まずは最近の暮らしのリズムというか、考えていること。それから、新しいお客様も増えておりますので「塩の作り方」などについて書きます。(風力による「かん水作り」は、戦後しばらくまで日本で行なわれていた伝統的な製塩法で、僕はそれを僕なりにアレンジして行ないます)。

僕の暮らしの中心は、言わずもがな、なんと言っても「塩」です。よっぽどの強い風や雨でも降らないかぎり、家にいる間は常に、とにかく火を焚いています。朝、起きたら真っ先にカマドに火をつけ、買い物などで出かける時は太い薪をくべて外出し、夜、寝る直前にも太い薪をくべてから床につきます。太い薪(家の梁など)をくべれば、長い時で8時間くらい(もしくはそれ以上)火がくすぶっていることもありますから、朝もライターを使う必要はほとんどありません。ですから、僕が島にいる間はカマドが冷めることがほとんどない状態です。

以上は「かん水」を作る際の話で(「かん水」とは塩分を濃くした海水のことです)、海水には約3%の塩分濃度があり、まずはそれを焚いて蒸発させ約20%(つまり約6倍、100%の海水が18%)になるまで煮詰めるのです。その煮詰めた液体が「かん水」で、その「かん水」を大きな土瓶(100%は入ります)に一晩寝かせ、塩に不要なものを沈殿させてから、綺麗な上澄みだけを仕上げの釜に移して、再び薪で焚き上げると塩の結晶が浮かび上がってくるのです。僕の場合は一回で約70リットルのかん水から、約12時間かけて煮詰め、塩を取り出しますので、つまり起きている間はずっと、かん水づくりと並行して仕上げの作業を行なっているような感じです(かん水用と仕上げ用の2つの釜があります。どちらの釜も最初から最後まですべて僕の手作りで、これは2000年の春にこの通信上で融資をお願いし、一口3万円を12人の方からお借りして作ったものです。お借りしたお金は、お陰さまで、この通信を発送後に返済する予定です。改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。)。こうして70%のかん水、一回の作業(1サイクル)から約12キロ(僕の「手塩」の場合)の塩が取れるのです。

70%のかん水を作るためには、僕の今のやり方で計算すると、平均して約30時間かかることが分かっています。仕上げの釜が5~6日に一度空いてしまう計算です。その空いた一日

は、ニガリの粉末を作ったり、仕上げの釜でもかん水づくりをします。そして、塩作りの合間に「畑」をしたり、風庵作りやキャンプの準備やご飯を作ったり...、その他雑用を済ませることになります(焚きはじめ、つまり午前中は火の温度を細かく調節する必要がないので、2時間以上の時間が3回ほど空きます)。夜は塩の袋詰め作業をしたり事務作業などなど...。僕の毎日は大体こんな感じです。塩作りは単純で単調な作業の繰り返しですが、とにかくかん水を作るまでが大変なので、この「風力施設」ができれば時間にも気持ちにも、もっと余裕ができてくると思います。

「風力による蒸発施設」を作る理由はいくつかありますが、まずは暮らしに余裕を持ちたいということ。簡単に言ってしまうと少し楽をしたい。もっと言ってしまうと、生産量を増やしても少し儲けたい。時間的・精神的余裕ができれば、塩の品質を一定に保つことも容易になると思います(余裕のない製塩だと、時に不本意な塩ができてしまうことがどうしてもあるのです)。風の力で少しでも蒸発させておけば、労働力は大きく変わらずに生産を増やすことができ、そうなれば、雨の日や夜は焚かないでいいようにできるし(何しろ僕の通信は「晴耕雨読」ですからね。そして塩の最大の敵は湿気なので、雨の日は作らないほうがいいし、夜焚くと夜露が天井から釜の中に落ちてしまう時があるので良くないのです。落ちないように工夫はしますが)、余裕ができればじっくりと製塩でき、常に良い塩が作れるようになると思うのです。お金を貯めたい理由もありますが(当面は「しっかりとした」家づくり)、もう一つ、蒸発施設を作る大事な大事な理由は、実は焚き物の問題です。

昨年の3月に、塩の製造に絶対不可欠な焚き物がなくなったことがありました。この時は大浦の廃屋を少しずつ解体してなんとか間に合わせましたが、この問題は塩を作り続けていく上で避けては通れないことで、とくに最近では同業者が増えていることもあって、木材の確保にこれまでよりも気を配る必要が出てきました。さらに、最近の家屋は新建材を使用したものが多く、木材の使用量が激減してきていることもあって、10年後20年後を考えると今から多少の危機も感じます(まだしばらくは大丈夫ですが、ちなみに、「燃やせない」新建材の家を取り壊した後の大量のゴミ。ほとんど埋め立ててばかりでこの先大丈夫なんでしょうか...?)。もしも焚きものがなくなった場合を考えて、風力で20%まで濃度を上げることも可能な状態にはしておきたいのです(僕のコダワリは鉄釜と薪(遠赤外線)。最初から最後まで鉄釜で作っているのは、この島では僕だけです。そして最近では、電気釜、灯油や重油・廃油バーナー(火炎放射器のようなもの)等々での製塩もあります)。

以上、風力の蒸発施設を作る理由を長々と述べてきましたが、とにかく、この章で言いたいことはただ一つ。生産量を増やしても、品質を落とすようなことは絶対にしない!ということ。塩を作り始めてもう4年と9ヶ月になりますが、未だに一度も在庫を持ったことがないという、本当に奇跡のような恵まれた状態が続いています。ですが、注文に追われるというか、お客様をお待たせしてしまう心苦しさのようなものから解放されて、余裕のある製塩と生活を、

お客様のためにも(最高の塩を安価で作る「続ける」ため)自分のためにも、したいと思っ
ているのです。

いいものだけを作る、本物だけを作り続けますので、今後ともご理解とご支援のほどを、
どうぞよろしくお願いいたします！！

〔 やっぱりキャンプの話 〕

今年の年末年始は「しまキャンプ」で子ども達と過ごしました。定員8名と言っていましたが、
結局は14名のリピーターと島外から2名のスタッフ、そして参加した子どものご家族4名が
参加し、他にも3名の応募がありました。これ以上は無理と断ることになってしまいました
(マサ君・トモ君・ケンタロウ、ごめんなさい)。

主な内容をザッと書くと、凧作り・凧揚げ・買い物・ドライブ・散歩・双六づくり・独楽回し・
メンコ・餅つき・鏡餅づくり・年賀状書き・焚き火で語ろう・ラジオで紅白を聞きながら掘り炬燵
でミカン・除夜の鐘・初詣・おみくじ・初日の出・書初め・百人一首・羽子板づくり・羽作り(梅
干しの種を使用)・羽根突き・七草探し...などです。日の丸を掲げ、和服で過ごし(和服を下さ
った長崎のクリちゃん、横浜の黒澤さん、ありがとうございました)、凧揚げ・羽根突きといった、
伝統的な日本らしいお正月を過ごすことができました。

今回のキャンプでは、とにかく「僕が」子ども達と遊びたい・話したいと思っていました。春も
夏も、ドタバタと慌しく・あっという間に過ぎ去っていく感じなので、僕自身が子ども達とゆっくり
遊んだり、じっくり話し合ったりすることがなかったからです。今回も14名の子どもがいた時は
ドタバタでしたが、3人になってからはゆっくりじっくり過ごすことができました。念願のプロレス
ごっこもできたし...(プロレス「ごっこ」ができるようになったら遊びの天才! そうそう、今年は偶
然にも4人での年越しだったので、正月マージャンをやりたいかったなあ~。勿論やらなかった
けど。僕の子どもの頃の正月と言えば、ミカンを賭けての家族マージャン! 2人兄弟で次男の
僕は負けてばかりで、いい手でアガレなかったりすると悔しくて泣いたので、「そんなことで男
が泣くな!」とオヤジによく叱られました)。焚き火を囲んで語り合うこともできました。そして今
回の最大の収穫は、島内から「20代のスタッフ」3名が参加してくれたこと。今までも、たあ~く
さんの地元の方が子ども達と触れ合ってくださいましたが、「20代」の若者が関わってくれた
のは初めて。今後の「しまキャンプ」に新たな・大きな展望が開けました。

「しまキャンプ」は子どもにとって、決して「楽な」キャンプではありませんが(他と比べてキビ
シイ・苦しいキャンプですらあります)、とにかくリピーターが多くて嬉しいです。「しまキャンプ」
の特色は、地元の方がたくさん関わってくださることと、「活きた火と、音楽のあるキャンプ」
だということ(僕のような変人がやってることが一番の特色ですね...。あとは「らしさ」を

大切に作るキャンプかなあ)。 「音楽のある所に争いはない」と、争いばかりのスラムで生まれ育ったサッチモが言っていますが、焚き火にも同じことが言えるような気がします。一つにまとめる力、情感を豊かにする力、普段見えない何かを引き出す力...

そんな「しまキャンプ・春休み」の告知を以下で。

しまキャンプ2004・春休み
～ 醤油を作ろう! ～

主催 しまキャンプ実行委員会 企画・運営 ぐらしの学校「えん」

後援 新魚目町教育委員会

実施期間 平成16年3月26日(金)～3月31日(水) 5泊6日

集合 26日13:00 解散 31日13:50

佐世保周辺(JR・バスターミナル・フェリーターミナルのいずれか)でスタッフが送迎します。

その他なんでもご相談ください。

主な活動場所 ぐらしの学校「えん」(長崎県南松浦郡新魚目町)

対象 小学校3年生～中学校3年生 20名

参加費 24,000円(兄弟割引22,000円) 食・宿泊費、教材料、保険料、集合から解散までの交通費(フェリー代)などすべてを含みます。

募集期間 平成16年1月31日(土)～2月11日(水・祝)

ただし、定員になり次第締め切らせていただきます。

申し込み方法 下記の連絡先まで、参加の希望をお電話にてお願いいたします。

詳しい資料を郵送いたします。

問い合わせ・申し込み先

しまキャンプ実行委員会事務局

〒857-4601 長崎県南松浦郡新魚目町小串郷37 ぐらしの学校「えん」内

TEL/FAX : 0959-55-2707 E-mail : kurashi_en@hotmail.com

担当:小野

先着順ですので、早めのお申し込みをよろしく申し上げます(男女の比率を調整します)。公平を期するため、申し込みの予約はできません。

毎回スタッフ集めに苦労しています。お知り合いに興味を持ちそうな方(高校生以上)がおりましたら、ぜひ声をかけてみてください。キャンプ期間中、スタッフがお金を使うことはありません(頭と体は死ぬほど酷使しますが...)。全日程参加のスタッフには、自宅と佐世保までの交通費の補助があります。どうぞよろしくお願いいたします。

〔 お～い、イカ！！ 〕

前回の通信から、イカの販売を始めました。お陰さまで、約400ハイ分のイカの注文をいただいております。しかしその途端に大不漁！！ご注文くださった方々に大変ご迷惑をおかけし、僕としても困っています。例年の五島なら10月末には揚がり始めるスルメイカが、気象の影響が12月末までまったく揚がりませんでした。ようやく揚がり始めてからも漁獲量は少なく、五島といえば「アゴ(トビウオ)」と「イカ」が有名ですが、今年はそのどちらも異常で、なんだか未恐ろしさを感じているこの頃です。今年はや暖冬のようなのですが、五島は寒い冬になりそう...

一緒にイカの加工をする漁師さんと、「今年の冷凍イカで急場をしのぐか...」という話し合いもしましたが、やはり美味しいものだけを作りたい・食べていただきたいということで一致し、とにかくイカが揚がり始めるまで待つことにしました。そのような訳で、現在も発送が滞っています。最近になって、やっとまとまった量が揚がり始めたので一安心していますが、やはり自然相手の仕事にはこういうことがあるので怖いですね(イカを包装するシーラーを下さった横浜の荘司さん。ありがとうございました！！)。

それにしても思うのは、現在の食環境・自然環境への懸念です。イカの加工を始めるにあたって、市販されているものをいろいろ調べてみたのですが、特に塩辛は合成添加物のオンパレードのようなものもあって、原材料を見ると驚きます。それでも今回、大量に加工してみて、自然のものだけで(人の手だけで)作ることの大変さを知りましたが、決して安くはない僕の塩やイカがスゴイ勢いで売れるのは、市販の食品への不信感が大きな要因の一つなのだろうと、改めて感じました。「安心できる本物の食べ物」を、みんな求めているのだと...

そして毎年右肩下がりになっている漁獲量の減少も心配です。人間の身勝手な線引きや判断で、大切なものがどんどん失われているような気がしませんか？「自然」や「安心」といった、見えにくいけど大切な価値観と、金銭的な豊かさのどちらを選択するのか...。多くの人が無意識の内に流されて選択すらし難いような今こそ、一人ひとりがじっくりと考え・選んでいくべきなのでしょうね。でも、まだ若い僕ですら、そんな安心できる本物を次世代に残していきたいと思っているし、僕の回りにはそんな想いの人がたくさんいるので、きっと良い方向に変わっていくと、信じているこの頃です。残していきたいですね！

お～い、イカ！ 来年もまた帰ってこいよ～！！ (合掌)

〔 次回以降は... 〕

今回も通信に写真を取り入れることが出来ませんでした。次回からはたぶん...

風力蒸発施設の時機完成を踏まえ、「本格的店頭販売(と言っても、知り合いの店頭など)」の準備中。パッケージ製作で知人のデザイナーさんと打ち合わせのため、2月中旬に横浜に帰省する予定です。次回以降にその顛末と想いを...

ホームページ開設の準備中。最近そこに載せる過去の「晴耕雨読」を読み返してみたら、自分で本当にビックリ！！今と全然考えが違う、違いすぎる！！人間ってこんなにも変わるものなのか！？その辺りの想いを、次回以降に…。

〔 編集後記 〕

新年おめでとうございます。みなさま良い新年を迎えられましたでしょうか。

キャンプでした書初めに、僕は「気」と書きました。見えない「気」を大切に、人や自然と接していきたい。そしてマンネリ化しつつある生活のリズムに緩むことなく、「気」を引き締めて一年を過ごそうという想いからです。でも僕は新年早々風邪を引いて、数日寝込んでしまいました…（それでも今年は、最高の新年スタートでした！！その訳はナイショ）。

病は「気」から。健康は快い(心良い)暮らしの根本ですね。お体に気をつけて、みなさま 良い一年をお過ごしください。今年もどうぞよろしく願いいたします。

「塩」 売ります！

塩 100g 200円 / 500g 1000円 / 1Kg 1800円
無選別・粗塩 1Kg 1200円 (結晶が粗く、木材のススなどのゴミが微量に混入する恐れがあります)
無選別・粗塩 500g 650円
にがり粉末 1Kg 600円 / にがり原液 1㍑ 400円 (すべて税込み)
5000円以上お買い上げの方は送料無料(その他は購入者負担)です。
平均的4人家族の塩の年間使用料は約2.5Kgです。
イカの一晩干し 2枚入り 500円 / スルメイカ 5枚入り1500円
イカの塩辛 500g 800円 (送料・保存方法など、随時ご説明いたします)

連絡先

〒857-4601 長崎県南松浦郡新魚目町小串郷大浦

TEL/FAX 0959-55-2707 メール: kurashi_en@hotmail.com

小野 敬

〔 近況報告5か月分！ 〕

またまた通信を出すのが遅れてしまいました。5か月分の近況報告をざっと簡単に...

まずは春の「しまキャンプ」ですが、今回は「お醤油を作ろう！」というコンセプトで、結果から言うと醤油作りもキャンプ自体の内容も上々の出来でした。特に内容の方で、これまでのどの回よりも落ち着いた・余裕のあるキャンプとなり、これまでの「ドタバタ」がなかったのは、リピーターのスタッフと驚き合ったというか、自分達で感動してしまいました！？ 通算7回目にしてやっと「普通のキャンプ」になったのかな！？ 8回目となる今夏の「しまキャンプ」の告知を裏面で行いますので、スタッフ 募集共々、お知り合いの方々にお声をかけていただければ幸いです。当初の予定では13泊14日ということで、問い合わせのあった方にはそのようにも申し上げてきたのですが、実行委員の方々と 相談の上、10泊11日と期間を短縮することに変更しました。そしてこれまでは、国から助成金を戴いて運営していたのですが(初年度は文部科学省の委嘱事業として、2・3年目は国立オリンピック記念青少年総合センターの「子どもゆめ基金」から助成金を戴いておりました)、助成を受けるための申請書や報告書づくりに莫大な時間と労力が取られることと、そのために生まれる様々な無駄をなくすため、そして僕の生き方・考え方としての「自給自足」の観点からも、国やお金に頼らず、自分でなんとかやってみることにしました。経済的な問題をクリアできるかどうか、正直やってみないと分からない状況ですが、とにかく今年はこういう形でやってみますので、ご理解とご協力の程を、どうぞよろしくお願いいたします。

キャンプの他に特筆すべき報告と言え、今年から田植えを5月初旬のゴールデンウィーク行なうようにしたことです。これまではいわゆる「晩稲」の米作りでしたが、毎年スズメの害に泣かされてきたので、隣の田んぼと同じ時期に田植えをし、収穫するように変えたのです。要するに僕の田んぼは狭すぎるので(3枚で半反強)、スズメに「全部」食べられてしまうのですが、スズメが食べきれないくらい広く多く米を作れば良いということで、隣のお百姓さん(約2反の田んぼ)と一緒に時期に作ることにしたのです。いわゆる「隣り百姓。今年の田植えはゴールデンウィークの5月3日と4日の2日間に分けて行い、地元の子どもたち4名とその親御さん(健司さんミワさん、ありがとうございます！！)達と賑やかに・楽しく行うことができました。収穫は、夏のキャンプ中のお盆過ぎに、子どもたちと行なう予定です。楽しみ楽しみ。

さて、もう一つ特筆すべき報告があります。塩の蒸発施設づくりです。

これまでは軽トラックにタンクを積んで、海水を運んでいたのですが、6月15日に、はじめて海から製塩カマドまで直接海水を運ぶことができるようになりました。これはぼくにとっては感動の出来事で、久しぶりに体と心が震えた一瞬でした。「生きてる！」っていう充実感で、涙が止まらない程の感動があったのは、仕事の上では久しぶりだったと思います。とにかくその後も蒸発施設作りに一生懸命で、今月中には初の試運転が出来る予定です(その時はまた泣いてそうですね...)。そして夏のキャンプまでにはなんとか完成させたいと思っています。次回の通信で詳しく報告しますね。以上、近況報告でした！！

～ 五 島 列 島 ～
しまキャンプ 2004・夏休み ～ 10泊11日
～

西海国立公園に位置する五島列島をフィールドに、たくさんの「思いっきり！」にトライする。

「しまキャンプ」はみんながみんなで作り上げる、「思いっきり！」のキャンプです！

主催 しまキャンプ実行委員会

できることだけでなく、やりたいことをやってみ

る！

企画・運営 くらしの学校「えん」

例えばこんなこと！？

後援 新魚目町教育委員会

実施期間

平成16年8月10日(火)～8月20日(金)

集合 10日13:00 解散 20日14:00

佐世保周辺(JR・バスターミナル・フェリーターミナルのいづれか)にスタッフが送迎します。その他もご相談ください。

主な活動場所

くらしの学校「えん」(長崎県南松浦郡新魚目町)

対象 小学校3年生～中学校3年生 男女20名

参加費 40,000円(兄弟割引38,000円)

(食・宿泊費、保険料、集合から解散までの交通費などすべてを含みます。)

募集開始 平成16年6月27日(日)午前8時より

募集締め切り 7月25日(日)

ただし、定員になり次第締め切らせていただきます。

・海水浴・釣り・かご網漁・いかだ作り
・塩づくり・虫とり・竹細工・野菜の収穫
・種まき・ペーロン(手こぎ船)大会に出場
・お菓子・豆腐づくり・犬やヤギと散歩
・ニワトリの世話・ご来光・夕陽・夜光虫
・流星観測・ナイトハイク・昼寝・野外炊飯
・テント泊・その他みんながやりたいこと！

申し込み方法

まずは下記連絡先まで、お電話でお問い合わせください。詳しい資料をお送りいたします。

これまで「しまキャンプ」に参加したことのあるリピーターのお子さんだけを対象として、8月7日(土)から「プレ・しまキャンプ」を実施します。内容は、10日からの「しまキャンプ」のリーダーになってもらえるように、火おこしやカマド作りなどキャンプテクニックの徹底した指導や、ゴリリンの暮らしのすべてを体験してもらうこと。もちろん、海で泳いだりドライブしたり...という楽しみもあります！！詳しくはお問い合わせください。定員は8名で、費用はプラス5,000円です。

10日からのキャンプには、大学生や社会人のリーダーが各グループに1名以上付き添います。その学生や社会人リーダー・スタッフも同時に募集しておりますので、まずは気軽にお問い合わせください。スタッフのキャンプ中にかかる費用一切を事務局で負担し、自宅からの交通費の補助もあります。

しまキャンプ・手塩のご注文の連絡先

〒857-4601 長崎県南松浦郡新魚目町小串郷大浦

TEL/FAX 0959-55-2707

小野 敬